

# インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：12月レポート

稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）  
松林洋一（APIR 主席研究員）  
野村亮輔（研究推進部）  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:nomura-r@apir.or.jp

## ポイント

### ●1月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表1)、**12月の訪日外客総数(推計値)は58,700人で、15カ月連続のマイナス(前年同月比-97.7%)**。2020年通年は、411万5,900人で前年比-87.1%と**9年ぶりのマイナス**。1998年以來(410万6,057人)の低水準となった。

▶11月30日から中国との間でビジネストラックとレジデンストラックの運用が開始により、12月は前月(56,700人)から幾分増加した。

▶訪日外客数を国・地域別にみると、トップ5は中国が18,400人、ベトナムが15,700人、インドネシアが3,300人、韓国が2,800人、フィリピンが2,300人であった。

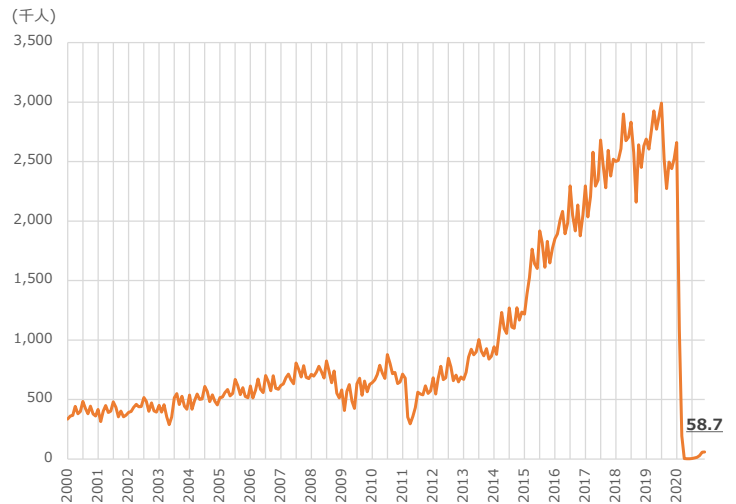
▶上記の国・地域の訪日外客数の伸びをみると、ベトナム、インドネシア、フィリピンは10カ月連続、中国は11カ月連続、韓国は18カ月連続の前年比マイナス。

▶国内でCOVID-19変異株が確認されたため、政府は、これまで**条件付きで緩和していた全世界からの新規入国を12月28日に一時停止**した。また、**1月14日から例外的に認可されていたビジネス目的の往来も一時停止**した。このため、1月の訪日外客数は反転減少の可能性が高い。

▶JNTO 訪日外客統計を目的別にみれば(図2及び表2)、**10月の総数(暫定値)は27,386人(前年同月比-98.9%)**となった。うち、**観光客は760人(同-100.0%)**、**商用客は2,588人(同-98.4%)**、**その他客は24,038人(同-84.7%)**であった。伸び率を見れば、観光客、商用客は13カ月連続、その他客は9カ月連続といずれもマイナス。10月は一定の条件下で中長期の在留資格を持つ訪日外客の新規入国が全面緩和されたこともあり、留学目的などを含むその他客が2カ月連続で1万人を超えた。

▶目的別国・地域別のトップ5をみれば、10月の**観光客**は米国が209人、中国が93人、韓国が48人、フランスが33人、英国が31人であった。**商用客**は中国が385人、韓国が320人、台湾が302人、タイが185人、マレーシアが156人であった。**その他客**はベトナムが6,056人、中国が4,024人、韓国が1,653人、タイが1,165人、台湾が930人であった。その他客は、ベトナム、中国からの訪日外客数が前月(ベトナム：2,674人、中国：2,626人)からいずれも増加した。

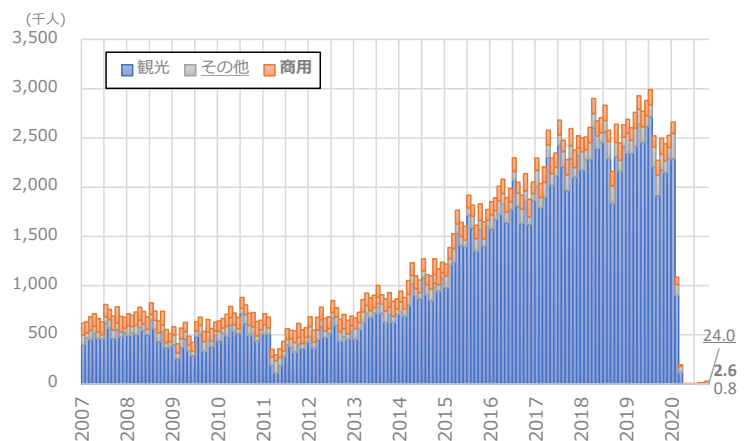
図1 訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 2019年：確定値、20年1～10月：暫定値、20年12月：推計値

図2 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注)「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

\*本レポートで使用している観光庁「訪日外国人消費動向調査」の統計調査が現在行われていないため、2020年11月公表分レポートより内容を一部変更していることにご留意頂きたい。

## トピックス 1

### ● 12月関西の財貨・サービス貿易の動向

▶ 12月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は**13,552人**であった(前年同月比-97.9%)。伸びは11カ月連続のマイナスで大幅減少が続く(図3及び図4)。**2020年通年は101万1,184人**と、**1996年**以来の値(92万491人)となった。前述したように全世界からの新規入国が一時停止されており、一層厳しい状況が続こう。

▶ 同月の日本人出国者数は3,192人で同-99.1%と12カ月連続で減少。**2020年通年で60万3,957人**と、**1994年(95万5,393人)**の開港以最も低い水準となった。

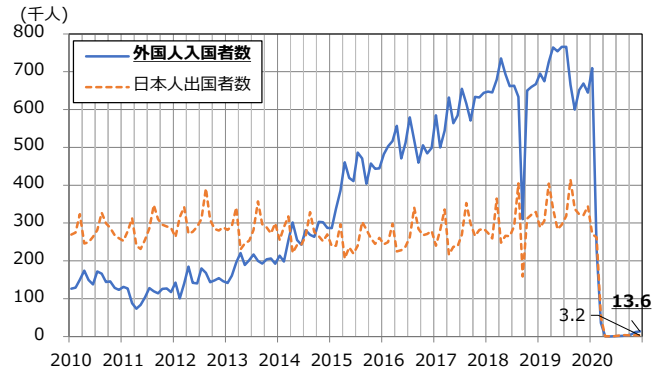
▶ 関空への訪日外客数減少によるインバウンド需要の損失額を試算してみる。2019年の2府8県の外国人消費額(確報ベース)は1兆2,127億円であるため(APIR推計)、20年12月の損失額は989億円(=12,127/12×関空への訪日外客数の減少率)と推計される。**結果、2-12月期インバウンド需要の損失合計は1兆667億円となり、2019年ベースの外国人消費額の88%を損失したことになる。**

▶ 図4は関空訪日外客入国者数の動態をリーマンショック期、東日本大震災期と今回の3つの時期で比較したものである。COVID-19ショック発生から11カ月経過したが、大幅なマイナスが依然続いており、インバウンド需要回復の兆しはみえない。さらに12月末にCOVID-19変異株が国内で確認され、感染再拡大(第3波)の影響を受けことにより、厳格な入国制限が取られていることから、今後の訪日外客数の動向は引き続き厳しい状況が続こう。

▶ **関西12月の輸出総額は前年同月比+5.2%で、2カ月ぶりのプラス**(前月:同-4.0%)。輸入総額は同-9.0%と15カ月連続のマイナス(前月:同-12.9%)。2020年通年では輸出は前年比-5.5%、輸入は同-11.0%といずれも2年連続のマイナスとなった。**関西12月の貿易収支は3,759億円と11カ月連続の黒字**となり、黒字幅は前年同月比+94.2%拡大した。また、貿易総額(輸出入合計)は同-1.4%となり、マイナス幅は前月(同-8.2%)から縮小した。なお、2019年9月を除けば18年12月以降縮小が続いている(図5)。

▶ **対中貿易動向をみると**(図6)、関西12月の**対中輸出額は前年同月比+8.3%と7カ月連続のプラス、伸びは前月(同+3.3%)から上昇した**。プラスチックや非鉄金属などが輸出増に寄与した。一方、対中輸入額は同-1.4%で2カ月ぶりのマイナス。2020年通年で輸出は前年比+4.3%と2年ぶりのプラスだが、輸入は同-4.8%で2年連続のマイナスとなった。

図3 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2020年12月値は速報値(図4も同様)。

図4 経済ショックからの回復の比較

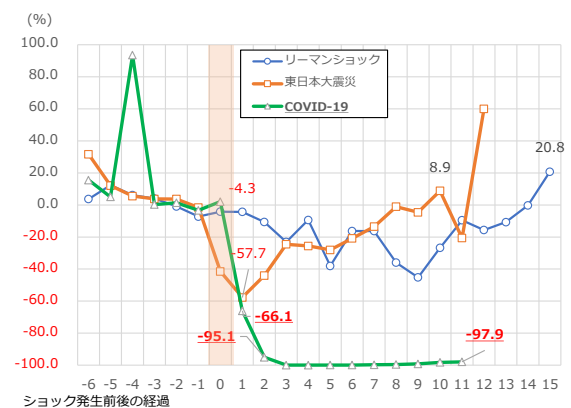


図5 関西 対世界貿易の推移

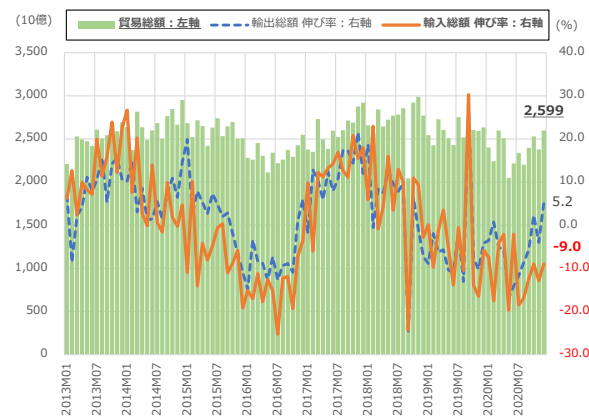
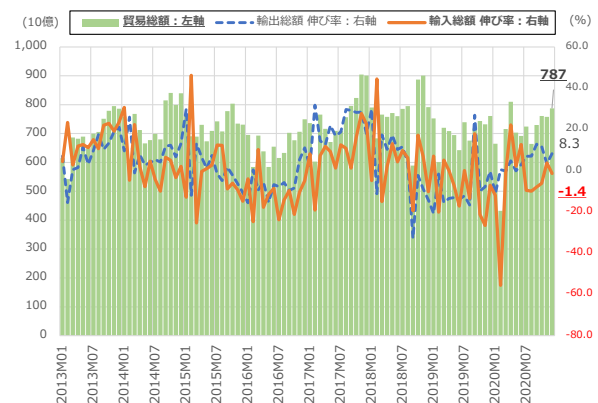


図6 関西 対中貿易の推移



出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

## トピックス 2

### ●10月 延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶10月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は9カ月連続の前年同月比マイナス(同-45.2%)だが、マイナス幅は前月(同-52.1%)から縮小。10月1日より、Go To トラベルキャンペーンの対象に東京都が加えられたこともあり、マイナス幅は5月(同-88.4%)を底に5カ月連続で縮小している。ただし、11月後半からのCOVID-19の感染再拡大(第3波)の影響もあり、先行きは不確実性が強く、注視が必要である。

▶うち日本人延べ宿泊者数をみれば、5,634.4千人泊で伸びは10カ月連続の前年同月比マイナス(同-23.5%)だが、前月(同-36.4%)からマイナス幅は縮小(図7)。府県別に延べ宿泊者数が多い順でみれば、大阪府が1,513.8千人泊(同-38.9%)、京都府が1,264.4千人泊(同-20.9%)、兵庫県が919.7千人泊(同-7.8%)、三重県が578.0千人泊(同-9.5%)、和歌山県が345.9千人泊(同-0.5%)、滋賀県が268.1千人泊(同-25.3%)、福井県が247.6千人泊(同-17.6%)、鳥取県が201.0千人泊(同-11.7%)、徳島県が152.0千人泊(同-33.1%)、奈良県が143.9千人泊(同-22.6%)であった(図8)。伸びは依然マイナスだが、奈良県以外の各府県ではマイナス幅は前月から縮小した。

▶うち外国人延べ宿泊者数をみれば、47.0千人泊となり9カ月連続の前年同月比マイナス(同-98.4%)で、伸びは90%超のマイナスが続く(図9)。府県別に多い順でみれば、大阪府が26.1千人泊(同-98.3%)、京都府が9.7千人泊(同-99.2%)、兵庫県が4.0千人泊(同-96.5%)、和歌山県が2.2千人泊(同-96.8%)、三重県が1.5千人泊(同-95.9%)、滋賀県が1.4千人泊(同-96.1%)、福井県が1.0千人泊(同-87.4%)、鳥取県が0.6千人泊(同-95.5%)、奈良県が0.4千人泊(同-99.2%)、徳島県が0.2千人泊(同-98.9%)であった(図10)。観光目的の入国が制限が続いており、各府県で大幅な落ち込みが続いている。

▶10月の延べ宿泊者数(関西2府8県ベース)の減少幅から(関西の)国内旅行消費額の損失額を推計すると、約807億円となる(=4.1兆円/12×関西の延べ宿泊者数の当月の減少率)。結果、3-10月期の損失額は約1.5兆円となる。また、11月速報値を考慮した延べ宿泊者数(全国ベース)の減少幅から(全国の)国内旅行消費額の損失額を計算すると、約2,873億円となる(=21.9兆円/12×全国の延べ宿泊者数の当月の減少率)。結果、3-11月期の損失額合計は約7.9兆円となる。

図7 関西 日本人宿泊者数の推移

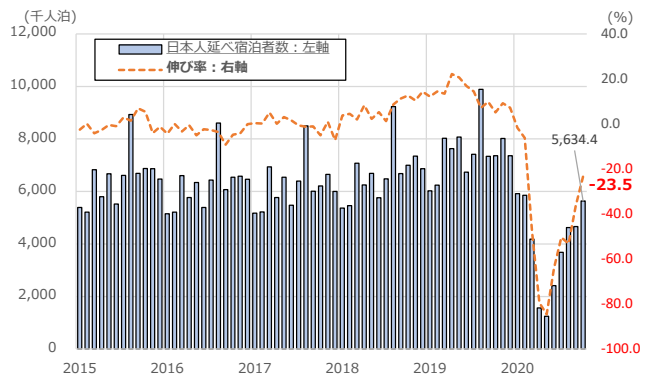


図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

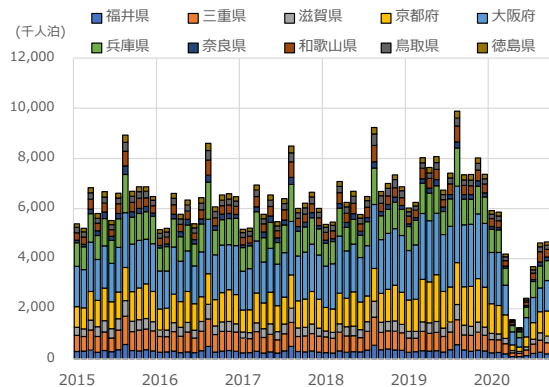


図9 関西 外国人宿泊者数の推移

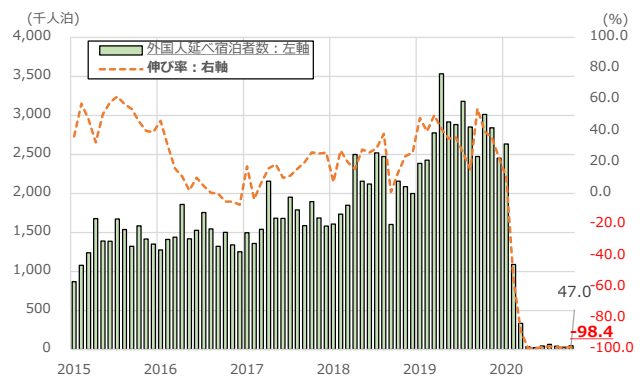
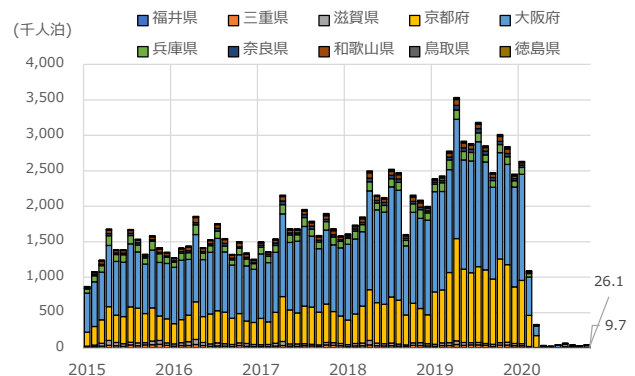


図10 府県別外国人延べ宿泊者数 推移



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図7~10)

表1 2020年12月 訪日外客数 (JNTO 推計値)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)
	12月	12月		1-12月	1-12月	
総数	2,526,387	58,700	-97.7	31,882,049	4,115,900	-87.1
総数(韓国・その他除く)	2,182,553	47,250	-97.8	24,988,299	3,424,930	-86.3
韓国	247,959	2,800	-98.9	5,584,597	487,900	-91.3
中国	710,234	18,400	-97.4	9,594,394	1,069,200	-88.9
台湾	348,269	1,000	-99.7	4,890,602	694,500	-85.8
香港	249,642	300	-99.9	2,290,792	346,100	-84.9
タイ	164,936	700	-99.6	1,318,977	219,800	-83.3
シンガポール	100,376	100	-99.9	492,252	55,300	-88.8
マレーシア	78,250	300	-99.6	501,592	76,500	-84.7
インドネシア	59,203	3,300	-94.4	412,779	77,700	-81.2
フィリピン	81,542	2,300	-97.2	613,114	109,100	-82.2
ベトナム	30,606	15,700	-48.7	495,051	152,500	-69.2
インド	11,739	1,600	-86.4	175,896	26,900	-84.7
豪州	72,653	200	-99.7	621,771	143,600	-76.9
米国	144,498	1,300	-99.1	1,723,861	219,300	-87.3
カナダ	35,132	200	-99.4	375,262	53,300	-85.8
メキシコ	6,499	50	-99.2	71,745	9,530	-86.7
英国	27,750	400	-98.6	424,279	51,100	-88.0
フランス	20,261	400	-98.0	336,333	43,100	-87.2
ドイツ	13,639	300	-97.8	236,544	29,700	-87.4
イタリア	11,196	200	-98.2	162,769	13,700	-91.6
ロシア	8,833	400	-95.5	120,043	22,300	-81.4
スペイン	7,295	100	-98.6	130,243	11,700	-91.0
中東地域	5,554	100	-98.2	95,160	7,800	-91.8
その他	90,321	8,550	-90.5	1,213,993	195,270	-83.9

表2 2020年10月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)
	10月	10月		10月	10月		10月	10月		10月		
総数	2,496,568	27,386	-98.9	2,177,382	760	-100.0	162,020	2,588	-98.4	157,166	24,038	-84.7
韓国	197,281	2,021	-99.0	155,972	48	-100.0	23,643	320	-98.6	17,666	1,653	-90.6
中国	730,631	4,502	-99.4	645,903	93	-100.0	31,428	385	-98.8	53,300	4,024	-92.5
台湾	413,701	1,258	-99.7	395,168	26	-100.0	11,103	302	-97.3	7,430	930	-87.5
香港	180,562	221	-99.9	176,031	10	-100.0	3,356	28	-99.2	1,175	183	-84.4
タイ	145,333	1,365	-99.1	138,912	15	-100.0	3,710	185	-95.0	2,711	1,165	-57.0
シンガポール	41,937	140	-99.7	38,030	7	-100.0	3,395	78	-97.7	512	55	-89.3
マレーシア	48,864	630	-98.7	45,071	5	-100.0	2,763	156	-94.4	1,030	469	-54.5
インドネシア	34,094	675	-98.0	26,605	18	-99.9	3,137	9	-99.7	4,352	648	-85.1
フィリピン	64,690	423	-99.3	57,161	18	-100.0	2,915	19	-99.3	4,614	386	-91.6
ベトナム	46,510	6,162	-86.8	16,131	13	-99.9	4,033	93	-97.7	26,346	6,056	-77.0
インド	13,929	714	-94.9	6,068	7	-99.9	5,244	39	-99.3	2,617	668	-74.5
豪州	51,563	200	-99.6	46,906	16	-100.0	3,547	43	-98.8	1,110	141	-87.3
米国	153,363	932	-99.4	127,454	209	-99.8	20,501	128	-99.4	5,408	595	-89.0
カナダ	37,667	118	-99.7	34,305	19	-99.9	2,365	17	-99.3	997	82	-91.8
メキシコ	7,385	34	-99.5	6,702	5	-99.9	467	1	-99.8	216	28	-87.0
英国	68,401	253	-99.6	59,330	31	-99.9	6,788	51	-99.2	2,283	171	-92.5
フランス	39,457	449	-98.9	33,306	33	-99.9	4,367	81	-98.1	1,784	335	-81.2
ドイツ	26,276	269	-99.0	19,780	29	-99.9	5,264	83	-98.4	1,232	157	-87.3
イタリア	14,731	133	-99.1	11,088	11	-99.9	2,477	23	-99.1	1,166	99	-91.5
ロシア	14,348	304	-97.9	11,262	7	-99.9	2,299	98	-95.7	787	199	-74.7
スペイン	13,739	100	-99.3	11,720	3	-100.0	1,069	22	-97.9	950	75	-92.1
中東地域	11,955	194	-98.4	9,873	7	-99.9	1,244	30	-97.6	838	157	-81.3
その他	140,151	6,289	-100.0	104,604	130	-100.0	16,905	397	-100.0	18,642	5,762	-99.7

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2021年1月20日付より筆者加工

注) 目的別訪日外客数の定義については、図2注参照。